

第1回大山学講座

所子伝統的建造物群保存地区  
所子集落をたずねて

第1回大山学講座「所子集落をたずねて」が、5月31日に行われました。

所子町並みガイドの村上章博さんの解説を聞きながら、賀茂神社、美甘家住宅（登録有形文化財）、門脇家住宅（国重要文化財）と所子村が形成された順にたどり、水神さんや水車小屋、集落内を通るツカイガワや、大山詣でにぎわ

う坊領道の説明に、当時の村の様子を垣間見ることができました。

今回は、特別に、門脇家住宅と南門脇家住宅（県指定文化財）の見学もあり、参加者は、当時の生活の様子に思いをめぐらせていました。

第3回講座（8月25日）では「大山開山1300年」をテーマに開講します。詳しくは広報8月号に掲載します。



「こちらが東門脇家住宅です」



庭園から借景の孝霊山を望む

まちのたから（4）文化財室通信

大山のもひとり神事の巻

今回は鳥取県無形民俗文化財に指定されている「大山のもひとり神事」を紹介しました。

もひとり神事の「もひ」は水の古語です。正式には大山古式祭として毎年執り行われています。

神事は7月14日の夕祭、15日早朝の派遣祭の後に午前2時頃山頂へ出立します。山上の石室に到着後、梵字ケ池で神水を汲み、付近で薬草のヒトツバヨモギを採って山上祭を行います。下山後に神水・薬草を奉納して朝祭が行われ、祭典終了後に薬草が信者に分けられます。

もひとり神事は、大山寺で行われていた弥山禪定という修行が、神仏分離によって大山寺が廃絶となった翌年の明治9年（1876）以降に、写経や納経などを除く部分が神事として大神山神社奥宮に引き継がれた形になったものです。

弥山禪定は、年番で選ばれた僧侶2人が旧暦5月から法華経写経を始め、旧暦6月14日の夕に大山山頂に登り、山上の梵字ケ池で写経した法華

経を経筒に納め、前年に納められた法華経、霊水、薬草を持ち帰るといって修行で、薬草や霊水などは信徒に配られました。山上の経筒は行方が分りませんが、霊水を入れる浄水器（閼伽桶）は残されており、大山寺霊宝閣で展示されています。

登山道が整備されて多くの登山愛好者でにぎわう大山は、江戸時代には弥山禪定修行僧などの限られた人しか登ることができない山でした。弥山禪定では前年の修行僧が引率で付きましたが、めつたに人が踏み入れることがない山上への登山は、道なき道を進むような厳しいものだったと思われま



梵字ケ池での神水汲みの様子

自然発生的な信仰を残し、それが弥山禪定から引き続いて伝統行事として現在に伝えられており、とても貴重です。今年も14日夕から15日朝にかけて執り行われます。夕

祭と朝祭は一般参加も可能で、夕祭には荒神神楽研究会による神楽奉納も行われます。参加希望の方は、大山町観光案内所（0859・52・2502）へお問い合わせください。（人権・社会教育課文化財室）